

## News ANTIQUES BAZAR

ヨレクホールのアンティークファンのお客様に、そして近頃人気の地ビール好きの飲んべの方たちに耳寄りな最新情報です。

11月より毎月第一日曜日に、ヨレクホールの蚤の市が地ビール工場で開催される事になりました。

### 第一回 葦元でヨレクホールの蚤の市 11月28日 SUN 31日 MON.

朝 11時 30分より 小雨決行

場所 湘南ビール 湘南麦酒蔵 ビアレストランガーデンにて  
詳しくは、NFORMAT ONにて



## 光明通信

クリスチンの十字

江戸の侍は、生涯決してきゅうり口にしなかったそう

どんな何でもない物でもある人にとっては、かけがえのない意味をもつことがあります。侍にとっての、きゅうりは特別な、恐れ多いものでありました。なぜってきゅうりを輪切りにした断面をご覧になったことあるでしょうか。あの瑞々しい種の断面図が三葉葵の御紋にそっくりだというわけです。いえ、見る人から見れば確かにそう見えるのです。この話本当かどうか真偽のほどは分かりませんが、なにか私たち日本人をにやりとさせるではありませんか？

日本人の心って、昔からこんなところにも現われていたのではないのでしょうか。天皇陛下万歳！と叫んで多くの若者が死んでいった時代にも、天皇を崇拜し汚すまいとしたあまりに行われた、残酷だけれどちょっと滑稽な日常の話が色々伝えられています。

昔から日本人は物や食べ物を大切にす素朴で正直な心を持つ一方、集団で何かを狂信してしまう危うい心をも持っている様です。そんな極端さを抱えきれず、矛盾や哀しさを滑稽に置き換えてしまう潔さと粹な心が、きゅうりの侍やそんな話を語り伝えた庶民にはあったような気がします。こんな悲しい話もあります。

きゅうりの侍よりずっと昔の話です。かつて日本にも、西洋の文化や宗教に触れ国中に信仰の芽が息吹いた時代がありました。織田信長が政治的思惑によりキリスト教の布教を許して以来、その後秀吉以来の厳しい禁教にもかかわらずクリスチン信徒の数は40万人までになったと言われます。が、結局日本中に激しい弾圧を引き起こし、多くの悲劇と遺恨を残して一つの信仰の時代は幕を閉じました。

とりわけ長崎の地には至る所に、かつてクリスチン達が殉教していった場所が残されました。その傷痕は、今もその血みどろな苦しみを訴えつづけているようです。でも何より驚かされるのはその子孫達には、隠れクリスチンとなって信仰を守りつづけていた人達が多いくという事実です。今では、隠れクリスチンたちの長い長い何百年もの苦しみを拭うように、美しい長崎の海を眺める彼らの隠れの里には、いくつかのクリスチン博物館が立てられています。

その真新しい、ガラスのウィンドウの中にマリア観音や擦り減った踏絵と並んで、小さな薄汚れた木の糸巻きが一つ置いてありました。それは、どの地方でも使われた何の変哲も無い糸巻きです。何故、ここにこんなものが展示されているのかと不思議に思っ説明を読んでみると、江戸時代徹底したクリスチン禁教の中彼ら隠れクリスチンたちは常に厳しく監視され、怪しければ墓穴さえあばかれたという事です。それで、死んで棺に入れられた時には、せめて真上から見ると十字に見えるこの糸巻きを胸に抱かせてもらったというそういう話だそうです。

ヨレクホール落書帳より

## COLUMN

まったくつまらん。人生何も面白い事がない。浪人生活を2年も送ると変になる。来年受かるメドもたっておらん。予備校行くために土方までしたけど、どうもウツになって家の中ばかりに居る。

自分がだんだんまともな人間からはずれて行く。気分を落ち着かせるために山マキにおせえてもらったMILKに来たけど、よけいに滅入る。

あばれたい精神だ。そうすれば良くなる。

我が精神の田栗さんは、どうして居るかな。

小生は元太郎だ。まったく文章になつたらん。

人間中身だ。to be or not to be・・・

実にいい言葉だ。高倉健は最高だ！

Jun Perdは、どうしておるかな。

ここのJazz もっとボリューム上げてくれ！

x 高校は、消滅してくれ。

イヤ、もう、燃えてなくなっています。

昭和53年3月1日に

逗子 桜山 Genji

1979年10月24日



## INFORMATION

NO.1

ヨレクホールの落書帳を復活させようと思います。何か言いたいことがある方も、ただ退屈な人も、好きなこと自由に書いて下さい。特に優秀？作品はヨレクホールタイムスに掲載させていただきます。

NO.2

インターネット難航中！

ミルクホールのホームページを近々ご紹介いたします。と豪語したのは何月のことだったのでしょ。

ミルクホールタイムスの記事を目に止めてくださった、インターネットの専門の方のご親切な指導と協力で、ハードな面でのバックアップがこれほど確かなのにも関わらず数ヶ月の努力むなしく、予定は大幅に遅れ、

未だ形見えず、ミルクホールのホームページはインターネットの闇の中をさまよっています。

でも、もう後悔しても遅いのです。ミルクホールのホームページは、かの格調高い雑誌にもう間もなく紹介されてしまうのです。

調子に乗って自慢したばかりに・・・

<http://www.milkhall.co.jp>

11月末 openの予定？？

